

## まる山に行ったこと

澄川南小2年 星野こずえ

わたしは、この前しょくぶつ友の会で、まる山に行ってきました。その日は朝から雨がふっていました。わたしが朝、おきたときには、おかあさんが、はら先生に、「きょう、しょくぶつ友の会はあるんですか。」ときいていました。はら先生は、「昼からはれる。」といったので、わたしたちはでかけました。まる山についてもやっぱり雨がふっていました。わたしは、さむかったので、「かえりたいなあ。」と思いました。でも、そのままついていきました。少し行くと、きのこがはえていたので、わたしは、ほとんどの人に「このきのこ、食べれる？」ときいてみました。でも、みんな「食べれないと思う。」といっていました。わたしは、食べたら家へもってかえて食べるのに。と思ったけど、あきらめました。少し行くと、だんだん雨もやんであたたかくなってきました。地面にかえでのみがたくさんおちていたので、かとうさんとどっちのみがよくとぶかきょうそうしました。しばらく行くと、やっとちょうじょうにつきました。10分間ぐらい休みました。そのとき、わたしたちがもってきたおやつをみんなにくれました。みんなは、「ありがとう。」といってくれました。かとうさんが、「下り道は、きついよ。」と、いいました。でも、そうきつくありませんでした。そして、下りるときにはにちゃんとひのまさんが、おじぞうさんにかいてある何十何番とかがかいてあるのを見てあるいています。かえりはおまいりをして、食堂へいって、すきなものを食べてきました。食べ終わったら、わたし、おにいちゃん、おかあさん、はら先生、むらのさんの5人で、えの木をみにいってきました。えの木というのは、オオむらさきのよう虫が食べるはっぱです。行くときはむらのさんの車できました。ついたら北こぶしというみがありました。もう少し行くと、とうとうえの木が見つかりました。しゃしんを四まいとって、えの木のみを食べました。どうしてもたねがのこってしまいました。ひかげの方に、えの木の子どもがはえていました。かえるときにはむらのさんがまるやまのえきまでおくってくれました。ホームに入ると、おばあちゃんのために花をかけてかえりました。とてもたのしい一日でした。これで1985年のしょくぶつ友の会はおわりです。でも1986年のしょくぶつ友の会もあるので、また、1回も休まずにしょくぶつ友の会へいきたいです。



## ぼくの観察会

澄川南小4年 星野良太

ぼくは、植物友の会にいて、よかったと思います。わけは、自分の家の近くでみられない植物を見たり、植物の名も、少しだけわかりました。豊平峡へ行く時は、パワーズのれんしゅうがあっけて行けなかったのがざんねんです。来年の植物友の会は、一ヶ月に、一回でなく、二回の方がいいな。と、思います。

## 待ちに待っていた植物友の会

星野フサ

淡い黄色の7~8cmの丸い形で、かぶと虫のつのような突起のあるものをもぎ取って「中には食べられる実が入っていますよ……」とは案内の原先生の言葉。私はその実をしっかりとつかまえて中の実を堅かったけど力を込めてはぎ取ってどんぐり位の大きさのちょっとくりに似た実にありついたのでした。この実を手渡された時、加藤さんが手袋がいるというようなことを言っていたのは聴こえていたのですが、どうしてそんな奇妙なことを言うのか気にもとめなかったのです。

## 星野さん家の山歩き



これは祝津でのピレオギクの観察に行く手前での出来事なのですが、このツノハシバミの実を食べ終った途端、指の先が何か気になり出したのです。光にすかして良く見ると黄金色のサボテンのトゲのようなのがピッシリ皮膚にささっているのです。このトゲをぬくのにはしばらくは真剣にならざるを得ませんでした。何といってもこのツノハシバミの実が今年の最高の印象でした。

最後の観察会は円山でした。雨の中、雨を物ともせず、傘をさしての観察会でした。みのむしのような、フワフワとした実が沢山ぶらさがっていて、この実を案内の原先生はサワシバと言っておられました。サワシバの実は、さわってもトゲなどないしフワフワとやすらぎが得られます。こんなにツノハシバミとサワシバの実は似ても似つかないのですが、両者の花粉はとても良く似ていて区別がなかなかむずかしいのです。花粉の形態はとても良く似ているのに実の方は全く似て居ないのはなぜなのでしょうか？。いろいろ興味がつきない今日この頃です……。我家の子供達2人とも植物友の会にとっても興味を持っている様子です。待ちに待った植物友の会の一年間の行事が終っちゃってちょっぴり空虚な心というか、来年の春が待ち遠しいです。